

移動式クレーンを起因物とするはさまれ巻き込まれの死亡災害発生事例（1999-2021年）

発生年	発生月	時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
2021	5	8 ～ 10	災害発生当日、被災者は部下の運転する移動式クレーン（65tラフタークレーン）の前輪の異常について点検をするため、当該移動式クレーンのアウトリガーを張り出し車体を浮かせた状態で、左前輪と車体の間に立ち入り部下にハンドルを戻すよう指示し、前輪が動いた時に車体の間（20cm）に挟まり胸部を強く圧迫され死亡した。	80409	50～99
2021	7	16 ～ 18	墓地改修工事にて、被災者がカニクレーンを操作し、墓地出入り口階段手前まで移動させていたところ、当該階段からカニクレーンが落ち、階下に停めてあったユニッククレーンと落ちてきたカニクレーンの間に挟まれて死亡したもの。	30309	1～9
2021	9	8 ～ 10	豪雨災害復旧工事現場において、積載型トラッククレーン（つり上げ荷重2.9トン）で、栗石を詰めたネット（重さ1.7トン）をつり上げて旋回中に、当該積載型トラッククレーンが助手席側に倒れ、操作者が地面との間に挟まれたもの。	30199	1～9
2021	12	14 ～ 16	被災者が、造園作業先の敷地内において車両積載型トラッククレーン（以下「トラック」という。）で移動中、当該トラックの運転席ドアを開け、身を乗り出しながら当該トラックを後退させていた際、近くにあった木に運転席ドアが衝突し、被災者は運転席ドアと車体の間に挟まれ、窒息死した（被災状況の詳細が確認できていないため、概要は推測。）。	60101	1～9
2020	1	14 ～ 16	土止支保工部材（H鋼を連結したもの）の小バラシ作業をしていたところ、移動式クレーンにてつり上げ中であったプレートが同部材の下（地面が砂利に覆われていたため、隙間があった）に入り込んだことにより同部材が被災者側に倒れ、隣接の土止支保工部材との間に挟まれた。	30199	10～29

2020	2	8 ～ 10	被災者は、資材置き場において他の作業員と2名でつり上げ荷重2.63トンの車両積載型トラッククレーンを操作して、木の枝の束（重量：約250～350kg）を荷下ろししていたところ、吊り荷が強風にあおられ（平均風速は調査中。）、トラッククレーンが転倒し車体と地面の間にはさまれ、外傷性窒息により死亡したもの。	30309	30～ 49
2020	7	22 ～ 24	定格荷重2.9トンのクローラクレーンで、土砂を集積したフレコンバックを吊り上げようとしたところ、フレコンバックを置いていた単管の囲いにフレコンバックが引っかかったため、クレーンを運転していた被災者が前方を確認するため頭部を出した際、身体が旋回レバーに接触し、左旋回したことから近接した場所に設けていた昇降足場の建地とクレーンのキャビンの間に頸部が挟まれ被災したもの。	30103	10～ 29
2020	8	10 ～ 12	被災者の当日の作業内容は出張先の車両系建設機械のフロントガラスの交換作業である。被災者は出張先の敷地内にて作業を行っていたが、同敷地内では同社労働者が移動式クレーンを用いたダンプからの荷卸し作業が行われていた。午前頃、被災者は当該移動式クレーンの上部旋回体と停車中の車両積載型トラッククレーンとの間に腹部を挟まれた。	11702	50～ 99
2020	9	14 ～ 16	被災者が橋の上に設置したつり上げ荷重2.93t移動式クレーンを操作し、橋の川下側高水敷にあるドラグ・ショベルを吊り上げようとしたところ、当該移動式クレーンが転倒して被災者に激突し、負傷した。救急搬送された医療機関で死亡が確認された。	30106	10～ 29
2019	6	6 ～ 8	工場内の原料受入れ栈橋において、クローラクレーン（バケット付き）を使用し、船から原料である石油コークスをホッパーに投入する作業をしていた。工場側から設備の点検をしながらホッパーのところまで来た別会社の労働者が作業中のクローラクレーンの下に倒れている被災者を発見した。発見後、病院へ搬送されたが死亡が確認された。	50202	30～ 49
2018	1	12 ～	RC造新築工事において、構台上の移動式クレーンにより、構台上のヤードから地下階へ仮設資材の荷下ろし作業中、構台端部から地下階の状況を確認していた玉掛者兼合図者である被災者が、同じく構台上で作業をしていた別	30201	50～

		13	の移動式クレーンが旋回した際に、当該移動式クレーンの上部旋回体と付近の構台手すりとの間にはさまれたもの。		99
2018	2	10 ～ 11	クレーン機能付きドラグショベル（以下重機と呼ぶ）を使用して、トラックの荷台に積まれたH鋼（長さ350センチメートル、重さ280キログラム）を資材置場に卸す作業中、H鋼を保持していた玉掛け作業員である被災者が、H鋼が傾いたため、あわててH鋼に駆け寄った際、転倒して重機前方にうつぶせになった直後、つり荷がクランプから外れ、重機の運転席に落下して操作レバーを動かし、重機が前進し被災者をひいたもの。	30110	1～9
2018	3	8 ～ 9	一般国道道路改良工事において、重さ1.8トンのL字型擁壁を現場から搬出するため、現場代理人である被災者がつり上げ荷重2.93トンの車両積載形トラッククレーンを操作し同擁壁をつり上げトラックの荷台側へ旋回したところ、当該クレーンが転倒し、当該クレーンとトラックの間に被災者が挟まれ死亡したもの。	30106	1～9
2018	10	8 ～ 9	汚染土壌の搬出作業において、4トントラックの荷台の横にいたトラック運転手が、旋回してきたクレーン機能付きドラグ・ショベルのカウンターウエイトと同トラックの荷台の間に胸部を挟まれ、死亡したもの。	30309	10～ 29
2018	11	8 ～ 9	個人宅において植木の移植作業中、槇の木を移動式クレーン（2.9t）で吊り上げたところ、枝等がジブに接触し持ち上げることができなくなったため、吊っていた木を一旦掘った穴（吊り上げた木の根を掘った穴）に戻したところ、被災者が穴に落ちていることに気づかず、胸を圧迫され死亡したもの。	30199	1～9
2018	11	16 ～ 17	工場内施設協力会駐車場において、駐車場に並列して駐車してあった高所作業車の助手席側前方アウトリガー付近とトラッククレーンの運転席側の側面との間に被災者が胸部を挟まれ意識を失っているところを仕事が終わる駐車場に立ち寄った作業員が発見した。	30302	30～ 49
		8	被災者は積載型トラッククレーン（ユニック車）を運転して法面養生用の鉄板を現場に搬入する業務に従事していたが、現場に同車両を駐車した際に、		10～

2018	11	～	同車両が後方へ逸走し始めたため、これを被災者が止めようと車両の助手席	30209	29
	9		ドア部分を押さえていたところ、押さえきれずに車両と共に車両停車位置の側方の路肩下部へ転倒・転落し、車両の下敷きとなったもの。		
2017	1	8 ～ 9	杉の伐採、搬出現場において、造材が終了した丸太を搬出するため、トラックの運転手が最大積載量7. 2 tのトラックを運転し、現場内の回転場で方向転換を行った後、後進で丸太の積み込み箇所まで約5 0 m移動させ停車したところ、トラックの車体の下に倒れている被災者を発見した。被災者は、集材土場において、先山から機械集材装置で降ろした材の荷外し作業を担当していた。	60201	10～ 29
2017	7	12 ～ 13	側溝排水管敷設工事現場において、U字型側溝を運搬するため、積載形トラッククレーンを使用して当該側溝（長さ約2 m、重さ約3 5 0キログラム）を2個、玉掛けしジブを起こしたところ、トラックがバランスを崩して転倒し、左側のアウトリガーと荷台の間にはさまれた。	30199	1～9
2017	9	8 ～ 9	2. 9トン小型移動式クレーンを使用し、翌日以降に使用する資材（鉄筋）を降ろす際の災害。被災者は、左側アウトリガーを張り出して下降接地させたところ、前方に約8度下降傾斜する地形であったため車両が流れ出し、アウトリガーボックス前方に位置していた被災者がなぎ倒され、左後輪に轢かれた（単独作業のため目撃者なし）。	30201	1～9
2017	12	8 ～ 9	被災者が、最大つり上げ荷重2. 3 3 tの車両積載形トラッククレーンを操作し、別の2 tトラックの荷台から重さ約0. 9 tのフレコンバックをつり上げ、地面へ降ろしていたところ、当該クレーンが2 tトラック側へ転倒した。被災者は、当該クレーンの車体（運転席）と2 tトラック荷台のあいとの間に胸部をはさまれた。	30199	1～9
2015	7	13 ～ 14	工場敷地内において、被災者は、車両積載形トラッククレーンの修理作業のため、助手席側前輪付近の車体底部に潜り込み、取付けられたエンジンスターターの不具合を確認していた際に、同僚にエンジンキーを回すよう指示したところ、トラックが後進し、トラックの前輪に轢かれたもの。	11701	1～9
			大規模修繕工事現場の東側にあるこう配5. 1°の道路上において、車両積		

2015	11	13 ～ 14	載形トラッククレーン（つり上げ荷重2. 9 3 t）の運転手である被災者が、同現場にて使用された足場材の積載を終えた後、トラッククレーンの脇にてアウトリガーの収納の操作を行っていたところ、アウトリガーが地面から離れた途端に同トラッククレーンが逸走し、アウトリガーと同現場の足場の建地との間に挟まれて被災したものの。	40301	10～ 29
2015	10	13 ～ 14	型枠組立工場兼資材置場のトラック車庫前において、型枠資材を積載した車両積載型トラッククレーン（最大積載量6, 8 0 0 k g、つり上げ荷重2. 9 t）の運転席側のドアと座席との間に胸部を挟まれている状態の被災者が発見されたもの。当該ドアはトラッククレーン右前方に置かれた資材に接触し、ドアの外側を資材に押される形となっていた。なお、死体検案書では死亡推定時刻は1 3 時～1 5 時とされている。	30209	10～ 29
2015	1	18 ～ 19	被災者は、移動式クレーン等を使用して、本船に鉄スクラップを積込む作業のフォアマン。当日の積込み作業を終え後片付けを行っていた際、被災者は清掃時にでたスクラップを移動式クレーンを使用して船内に積み込もうとしていた事に気付かず、トラック用マーカを当該移動式クレーンに積み込もうと近づいた際、回転していた上部旋回体のカウンターウェイトとクレーン車体の間に頭部を挟まれ死亡したものの。	50202	1～9
2015	3	9 ～ 10	移動式クレーンの運転者であった被災者が、何らかの理由で移動式クレーンの窓から身を乗り出していたときに移動式クレーンのジブが上昇し、頭部と左腕を挟まれ、死亡した。被災者が窓から身を乗り出した理由は不明。災害発生時、被災者は移動式クレーンを運転して現場に到着した直後であり、作業開始前であった。アウトリガーを張り出す前であり、ジブを動かす必要もないことから、ジブを動かした理由も不明である。	30110	1～9
2014	2	9 ～ 10	資材の荷卸作業中、トラックの荷台の奥から後部荷卸口までの積荷の引き寄せに使用するためトラックの後方に後ろ向きに停車させていた積載形トラッククレーンを、引き寄せが終了したため前進させようとしたところ、運転者が運転操作を誤り後進させてしまったため、トラックと当該クレーンとの間にいた被災者が双方の荷台後部に挟まれた。	30302	10～ 29

2014	7	16 ～ 17	トレーラーの荷台に積んだ六脚ブロックをオールテレーンクレーンで吊り上げ、仮置き場に降ろす作業中、吊り上げた六脚ブロックが既設の六脚ブロックと接触し、反動で六脚ブロックがずれ動き、合図をしていた被災者は、オールテレーンクレーンのアウトリガーと六脚ブロックの間に挟まった。	30111	10～ 29
2014	10	12 ～ 13	土嚢を積載型トラッククレーンとダンプトラックに積み込み、積載型トラッククレーンのアウトリガーを緩めたところ、クレーンが後退し、アウトリガーとダンプトラックとの間に挟まれた。尚、積載型トラッククレーンを停車していた場所は、約5度の坂道であった。	30105	10～ 29
2013	9	15 ～ 16	災害復旧工事現場において、被災者は、同僚とホイールクレーンでホッパーをつり上げ生コン打設作業を行った。作業終了後アウトリガーを収納し、敷板を片付け、作業日報に作業終了の確認のサインを受領するため、パーキングブレーキをかけホイールクレーンのエンジンを停止し運転席から降りたところ、角度9度の坂道に停車していたホイールクレーンが動き出し坂を下り始め、ホイールクレーンに巻き込まれた。	30209	1～9
2013	2	14 ～ 15	35トントレーラーの荷台に積んでいた鉄スクラップを、アタッチメントを換えたドラグショベル2台（1台はグラップル、1台はリフティングマグネット）を用いて地上へ下ろしていたところ、荷台上に立ち入った当該トレーラーの運転者が、このリフティングマグネットの下敷きとなった。	150102	10～ 29
2013	12	7 ～ 8	敷地内を徒歩にて移動中、地面に落ちていた物を拾おうとしてしゃがみかけたところ、バックで走行してきた11tトラッククレーンにひかれた。	150102	1～9
2013	9	9 ～ 10	クローラクレーン（つり上げ荷重59.0t）を解体し、トレーラーに載せて搬送するため、被災者は上部旋回体の下に入りクローラ部を固定するボルトを外していたところ、旋回してきた上部旋回体の旋回フレームとクローラの間に頭部を挟まれた。	30209	30～ 49
2013	7	11 ～	傾斜地にある霊園内において、墓石の解体・撤去作業に使用する小型移動式クレーン（以下「カニクレーン」と記す。）を走行姿勢で作業場所まで移動していた。被災者が操作して約19度の階段を後退で登っていたところ、カ	30209	1～9

		12	ニクレーンがバランスを失い階段下方に回転した際に投げ出され、回転後に横倒しになったカニクレーンの下敷きになった。		
2013	8	4 ～ 5	熱処理が終わった鋳鉄ピストンを移し替える作業において、被災労働者は、各段35個のピストンが載っている2段式パレットのうち、上段のピストンが載っているパレットに吊りチェーンを掛け吊り上げようとしたところ、移動式クレーン（吊り上げ荷重200kgのキャスター付きジブクレーン）が転倒し、クレーンの支柱とピストンが載ったパレットの間に被災労働者が挟まれた。	11509	100 ～ 299
2013	12	9 ～ 10	排水路の堰止のため、土嚢を小型移動式クレーン（吊り上げ荷重2.9tトラッククレーン）で吊り下ろしていたところ、クレーンが傾き、操作していた被災者がトラック脇に仮置きされていた土嚢とクレーンの間に挟まれ、外傷性窒息により死亡した。尚、道幅が狭く、アウトリカーを最大に張出すことができなかった。	30107	1～9
2012	10	14 ～ 15	資材置場で小型移動式クレーンの荷台からコンクリート製ブロック（重さ約2t、1.8m×0.8m×0.6mの直方体）を吊り下ろす作業を単独で行っていた被災者は、吊り荷（コンクリート製ブロック）と当該場所に集積されていた別のコンクリート製ブロックの角との間に頭部を挟まれ、脳挫傷により即死した。なお、被災者は、リモコン操作により当該小型移動式クレーンを運転していた。	40301	1～9
2012	5	9 ～ 10	被災者は、事業場に設置してある鉄屑裁断機の点検作業を終わらせ事務所に戻るため、他の作業者が運転する移動式クレーン（車両系建設機械のバケットをリフティングマグネットに交換したもの）の後方を移動していたところ、移動式クレーンが旋回し、移動式クレーンのカウンターウエイトと集積された鉄屑の間に挟まれた。	150102	1～9
2012	9	8 ～ 9	豪雨により崩壊した林道の復旧工事現場において、足場の解体材を移動式クレーン（積載型トラッククレーン、つり上げ荷重2.9t）を用いて積み込んだ後に発生した災害。被災者は当該クレーンを移動させようと、アウトリガーを十数センチ程度引き上げたところ、当該クレーンが後退したことによ	30199	100 ～ 299

			り、アウトリガーと鋼製擁壁との間にはさまれた。		
2011	10	11 ～ 12	小型移動式クレーンに搭乗出来る設備を装着して、これに乗って電光看板の点検を行っていた時、搭乗出来る設備と電光看板に挟まれ死亡したもの。	170209	1～9
2011	1	14 ～ 15	埠頭のスクラップ積込場所において大型トレーラー荷台の鉄くずを荷降ろし中、被災者が荷台の中に入り込んで鉄くずを集めているのに気付かずに、埠頭のクレーンオペレーターがクレーンのアームを荷台の中に入れてしまったため、アームと荷台の床との間で押し潰された。	40301	10～ 29
2011	2	11 ～ 12	建築現場に床材を搬送するために入場し、荷降ろし作業は終了していたが車載型トラッククレーンのエンジンからクレーン部に動力を伝えるシャフトに右手を巻き込まれ、顔、腹部を挟まれた状態で死亡していた。	40301	30～ 49
2011	7	15 ～ 16	キルン改修工事現場において、トラッククレーン（つり上げ荷重200t）のカウンターウェイトの交換作業中、同クレーンが旋回したところ、車体と上部旋回体の間に腰部、両足を挟まれて負傷した。その後、市内の病院で入院加療を行っていたが、8月9日に死亡した。	30309	10～ 29
2010	7	13 ～ 14	被災者他1名で、情報ケーブルを埋設するためのコンクリート製のマス（約2.4t）を積載型移動式クレーン（定格荷重が2.9t）でつり上げ作業中、移動式クレーンが転倒しそうになったため、被災者らは移動式クレーンの荷台をドラグショベルのバケットで抑えた後、作業に戻ろうとした際、移動式クレーンが転倒し、被災者は移動式クレーンとガードレールの間にはさまれた。	30106	10～ 29
2010	7	20 ～ 21	被災者は、杭掘削準備作業を行っていたところ、つり上げ荷重4.9tのクローラクレーンを運転中、運転席より身を乗り出した姿勢で誤って旋回レバーに体の一部が接触し、現場内の中間杭にはさまれ死亡したとみられる。	30199	50～ 99
2010	7	17 ～	被災者は会社からスクラップを積んだトレーラーを運転し、会社内のスクラップヤードまで運搬した。別の会社の社員がドラグ・ショベルのバケットに替えてリフティングマグネットを装着した移動式クレーンでトレーラーの荷台のスクラップの荷卸し作業中、被災者がいないことに気づき、同僚と探	40301	1～9

		18	したところ、荷台の中で外傷を負って倒れている被災者を発見したもの。荷 卸し作業中の荷台の中に入ったことにより、荷台とリフマグに挟まれたとみ られる。		
2010	4	11 ～ 12	被災者は事業場敷地内において、車両積載型トラッククレーンを使用し、廃 材の石膏ボードを当該クレーンの荷台に積み込み、処理場へ運搬する予定で あった。積み込み作業終了後、使用していた当該クレーンのアウトリガーを 一番高い位置にセットした状態で、何らかの理由により当該クレーンの車体 下部に潜り込んでいた。その後、クレーン駆動用のシャフト部分に右腕が巻 き込まれている状態で発見されたが、死亡が確認されたもの。	150102	30～ 49
2010	3	14 ～ 15	被災者は、次の収集運搬作業等の準備のため積載型トラッククレーンを使用 して1人で作業を行っていたが、その際アウトリガーを最大に張り出しをせ ず、中間張り出しの状態であったこと、また、作業場地面に水たまりがあ り、地盤が軟弱な状態にもかかわらず敷鉄板等の措置を講じないまま使用し ていたことで、収集箱をつり上げた際にクレーンが転倒し、運転席と直近に あった別の収集箱との間にはさまれている状態を発見された。	150102	10～ 29
2010	3	9 ～ 10	間伐事業現場において、被災者（玉掛け者）と同僚（移動式クレーン運転 者）の2名で車両積載型トラッククレーン（つり上げ荷重2.93t）を使 用し、鉄板5枚（3m×1.5m、重さ約750kg）を地面に仮置きする 作業中、5枚目の鉄板を地面に下ろした際、当該鉄板が荷振れし、荷の介添 え作業を行っていた被災者が当該鉄板と車両積載型トラッククレーンの荷台 に挟まれ、胸部圧迫により死亡したもの。	60209	1～9
2010	3	14 ～ 15	植栽作業中、移動式クレーン（吊り上げ荷重2t）でドラグショベルを堀越 しに吊り下ろす際、遠方で吊り下ろしてしまったため定格荷重を超え、移動 式クレーンが傾き、クレーン本体と堀の間に挟まれたもの。被災者は移動式 クレーンの運転に必要な資格を有していなかった。	30199	1～9
2009	2	9 ～	被災者は、共同作業（玉掛け作業兼合図者）と共に、トレーラーの荷台に 積んだ2個の消波ブロックの一方に玉掛けを終え、合図者の無線合図により 移動式クレーン運転者が巻き上げようとしたところ、消波ブロックが傾きも	30111	1～9

		10	う一方の消波ブロックとの間にはさまれた。		
2009	11	10 ～ 11	新築工事の建築材料の運搬の委託を受け、被災者がトラッククレーンにて運搬して来た。他の移動式クレーンにて積み荷を下ろす作業に取りかかろうとした時、トラッククレーンが動き出し、止めようとした被災者がトラッククレーンと壁にはさまれた。	40301	1～9
2009	3	8 ～ 9	移動式クレーン機能付ドラグ・ショベルの近くにいた被災者が、土のうをつり上げ旋回したドラグ・ショベルのカウンターウエイトとボックスカルバートの翼壁との間にはさまれた。なお、災害発生時、移動式クレーン機能付ドラグ・ショベルの切替えスイッチは「ショベル」側に入っていた。	30199	1～9
2008	9	9 ～ 10	谷川に堆積した土砂の撤去・運搬作業を行うため、車両積載形トラッククレーンの荷台に不整地運搬車（機体重量2.0t）を載せて現場に搬送した。その後、当該クレーン（つり上げ荷重2.9t）を使って不整地運搬車を作業場所に降ろす作業中、車両積載形トラッククレーンがクレーンを操作していた被災者側に倒れ、ガードレールとの間にはさまれて死亡した。	30199	1～9
2008	7	13 ～ 14	被災者は、資材置場の敷地外にトラッククレーンを停車させて車外で作業を行っていたところ、無人の当該トラッククレーンが動き出した。停止させるためにトラッククレーンに乗り込もうとした時、車のドアが門柱などに接触して身体がはさまれて死亡した。	40301	30～ 49
2008	12	14 ～ 15	コンクリートミキサー車で現場に生コンクリートを運搬したところ、工場内で他社による車の移動があったため、移動する車両積載形トラッククレーン（以下「トラッククレーン」という。）の誘導を行い、その後、トラッククレーンの前方に移動したところ、位置を変えるため移動したトラッククレーンの荷台と建設中の豚舎の擁壁との間にはさまれて死亡した。	10901	10～ 29
2008	1	14 ～ 15	国道道路災害防除工事現場において、落石防止柵の撤去作業中に横倒しにした支柱（コンクリートの四角柱とH形鋼を組合せたもの、長さ7.33m、H形鋼の断面寸法25cm×25cm）を移動式クレーン仕様のドラグ・ショベルにより引きずって所定の場所まで移動させようとしたところ、被災者が支柱のH	30108	1～9

			形鋼部と法面コンクリート壁にはさまれ死亡した。		
2007	12	8 ～ 9	自社資材置き場からコンクリートブロック（1×1×1 m）を運搬するため、積載形移動式クレーンでコンクリートブロックをつり上げて旋回したところ、積載形移動式クレーンが傾きだしたため、右側の操作位置から前方に逃げようとした際、傾いたアウトリガーと地面にあったコンクリートブロックの間にはさまれた。	30106	10～ 29
2007	10	16 ～ 17	墓石設置工事において、作業で出た土を運ぶため、トラッククレーンを道路斜面に設置し使用していた。被災者は通行するバイクを通すために、トラッククレーンを移動させようとしてアウトリガーを上げる操作をした時、当該トラッククレーンが斜面を下りはじめ、ガードレールに接触しながら、30 m走って横転し、被災者はトラッククレーンの横へ投げ出された。	30309	1～9
2007	6	11 ～ 12	車両積載形トラッククレーン（4 t）の積荷を別の車両積載形トラッククレーン（10 t）に積み替える作業が終了したので、立てていた4 tクレーン車のブームを戻そうとしてドアを開け運転席に座らず地面に立ったままエンジンをかけた時、PTOが走行側に入っており、かつ4 tクレーン車のギアが入っていたため前方に動き出し側方に停車していた10 tクレーン車のアウトリガーにドアが衝突し、ドアと車体にはさまれた。	30105	1～9
2007	8	16 ～ 17	採掘ガスパイプライン敷設工事において、敷鉄板（1.53 m×6.13 m×t20 重さ1.6 t）をクレーン機能付きドラグ・ショベル（2.9 t）でつり上げ4 tトラックに積み込む作業中、トラック荷台上で敷き鉄板を横に倒した際、敷き鉄板が横滑りして、当該クレーンとトラック荷台との間で荷ぶれを防ぐため支えていた被災者が横滑りしてきた敷き鉄板とクローラの間にはさまれた。	30199	10～ 29
2006	12	11 ～ 12	被災者は一人で、2.9トン車両積載形トラッククレーンを用いて、無線操作によりテトラポット製造用型枠（幅2.16メートル、高さ2.08メートル、重量0.6トン）を荷台に積み込む作業中、荷台から降りようとしたところ、型枠が倒れ、あおり受けの中柱と型枠との間にはさまれた。	40301	10～ 29
			被災者は、トラックの荷台に積んでいた発電機を架台上に陸揚げされている		

2006	12	13 ～ 14	船に積み込むため、架台横のスロープ上にトラックを止め、つり上げ荷重 2 5 トンの移動式クレーン車を待っていたところ、その移動式クレーン車が、 架台に通じるスロープを移動中に制動装置が作動しなかったため、スロープ 上の被災者を轢いた。	11401	50～ 99
2006	10	14 ～ 15	建物外溝改修工事を行っていたところ、傾斜角 8 度の道路に停車していた車 両積載形トラックが動き出し、被災者を巻き込み、途中ブロック塀や電柱に 激突しながら 70 メートル下の民家に激突した。	30199	10～ 29
2006	6	17 ～ 18	足場上に置かれている鉄筋が少なくなったので、被災者がクローラークレー ン（2.9 t）で荷揚げすべく搭乗し、他 3 名が足場上で鉄筋の組立作業を 行っていたところ、側壁に何かがぶつかる音がして、足場上から被災者に声 を掛けたが反応がなく下に降りたところ、被災者が中間杭とクローラーク レーンの運転席との間に挟まれていた。	30102	1～9
2006	7	8 ～ 9	マンション新築工事現場において、アース・ドリル（つり上げ荷重 35 t の クローラークレーン）で発電機をつり上げて左旋回したところ、隣に停めて いたドラグ・ショベルの運転席にいた被災者が、アース・ドリル旋回体右後 部と搭乗するドラグ・ショベル運転席左前部にはさまれた。	30201	1～9
2006	3	11 ～ 12	道路占有区画をした範囲内において、道路法面にある枯れ木の伐採、剪定作 業を、被災者を含む 8 名で実施していた際、伐採した幹を車両積載型トラッ ククレーン（2.9 t）の荷台に積載するため、被災者が後方で誘導しながら、 当該トラックを後進させていたところ、被災者が荷台に接触し、路面に 倒れたところを後進するトラックの左後輪に轢かれた。	30199	10～ 29
2005	10	8 ～ 9	工事現場で使用する沈殿槽（縦1.2m、横3.6m、深さ1.2m）を会社資材置き 場から運搬するため、車両積載形トラッククレーン（吊り上げ荷重2.9ト ン）でつり上げ中、当該クレーン車両が横転し、下敷きとなった。	30107	1～9
2005	9	15 ～ 16	小型移動式クレーンで、運搬してきたプラント用発電機を地上に降ろそうと 当該クレーンを操作し旋回したところ、当該クレーンが被災者側に倒れ、再 生コンクリート山との間に挟まれた。	10901	10～ 29
		13	自社車庫より車両積載形トラッククレーンを出そうとエンジンを始動させた		

2005	5	～ 14	ところ当該車両が動き出し、運転席のドアが車庫の柱に当たり、ドアと車体との間に挟まれた。	80409	1～9
2005	7	10 ～ 11	車両積載形トラッククレーン（つり上げ過重2.9トン）で建設資材（重さ1.8トン）の荷降ろし中、当該クレーンがバランスを崩し左側に横転し、当該クレーンを操作していた被災者が当該クレーンのタイヤと路面との間に挟まれた。	40301	1～9
2005	6	15 ～ 16	資材置き場でコンクリートをつり上げた際、車両積載形トラッククレーンが横転した。	30199	1～9
2004	6	15 ～ 16	岸壁に係留している浮きクレーンの補巻のワイヤロープを交換する作業中、立て置きしていた主巻のフックブロック（重量約1.3 t）が倒れ、下敷きになった。	30199	10～ 29
2004	11	17 ～ 18	車両積載形トラッククレーンを使用し、荷（重さ約1200kgの鋼製の架台）のつり上げ作業を行っていたところ、当該クレーンが転倒し、操作を行っていた被災者がこれに巻き込まれた。	10901	10～ 29
2004	3	11 ～ 12	車両積載形トラッククレーンを使用して、公道から1段下がった自社資材置き場にプレハブの現場用事務所を荷台からつり下ろしていたとき、トラッククレーンが傾き、下ろし側に立って操作していた被災者が機体とガードレールの間に挟まれた。	30106	10～ 29
2004	12	10 ～ 11	事業主がトラッククレーン（つり上げ荷重2.93t）を操作し、林内作業車（重量1.9t）を荷台から地面へ下ろしていたところ、被災者がつり荷の林内作業車と塀との間に挟まれた。	10401	1～9
2004	7	8 ～ 9	排水路工事現場において、車両積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.93 t）を用いて荷台に積んでいた鉄板1枚（重さ800kg）を同クレーンで積み降し作業中、車体が倒れ、クレーンをリモコン操作していた被災者が車体とガードレールの間に挟まれた。	30199	10～ 29
		9	移動式クレーンのジブ先端に取り付けられた専用の搭乗設備（搬器）に乗り		

2004	11	～ 10	込み、地上25m付近に設置されているベルトコンベア架台の点検作業（H鋼の肉厚測定）を行っていたが、3カ所目の点検を終えたところで、H鋼と搬器との間に挟まれた。	11001	1～9
2003	10	9 ～ 10	雨水幹線のしゅんせつのため、車両積載型トラッククレーン（最大定格荷重2.6t）で運んできたドラグ・ショベル（機体質量約2t）を橋の上から川につり降ろす作業中に、定格荷重を超えたためクレーンが転倒し、クレーン運転士が橋の欄干とクレーンとの間にはさまれた。	80409	1～9
2003	6	8 ～ 9	坑内でクレーン機能付きドラグ・ショベルでコンクリート製溜めますを敷設する作業で、運転手が後方より来たダンプ・トラックに停止合図を送るため操作席を立ち上がって身を乗り出したときに、体が操作レバーに触れたためブームが旋回し、溜めますの玉掛け用ワイヤロープを交換していた者がブームと溜めますとの間にはさまれた。	30102	10～ 29
2003	5	15 ～ 16	つり上げ荷重2.9tの車両積載形トラッククレーンで、重さ約1.1tのH鋼をつり上げ荷台に積み込むためトラッククレーンを旋回させたところトラッククレーンが横転し、トラッククレーンの車体と道路脇の縁石との間に胸部をはさまれた。	30107	10～ 29
2003	5	11 ～ 12	墓石の加工場内で、墓地土止め工事に使用するハンドガイド式の小型移動式クレーン（つり上げ荷重2.5t）をトラックに積み込むため、トラックに背を向けたままトラック側面に向かってクレーンを後進で走行させていたときに、トラックと小型移動式クレーンとの間に腹部をはさまれた。	30199	1～9
2003	3	10 ～ 11	空調機の室外機を建物屋上に搬入する作業で、ラフタークレーン（つり上げ荷重25t）でつり上げようとしたが、ブームでつり上げると建屋外壁に接触するおそれがあったので、継ぎジブの取付け準備中に突然ジブを固定しているジブフットピンが外れてジブが脱落し、車体とジブとの間に胸部および腹部をはさまれた。	40301	50～ 99
2003	2	11 ～ 12	木材の搬出作業現場で、つり上げ荷重2.93tのトラッククレーンで材木（長さ8.8m、直径0.6m、重さ2t）を荷台に積込む作業を荷台上で行っていて、材木と車体との間にはさまれた。	10401	1～9

2002	12	17 ～ 18	作業構台上の水銀灯を移動させる作業を50 t クローラクレーンの立入禁止区域で行っていたため、クレーンが右旋回したときにカウンターウェイトと構台手すりとの間に挟まれた。	30201	10～ 29
2002	9	20 ～ 21	移動式クレーン（つり上げ荷重2.9 t）でガラスの梱包木枠（長さ2.9m、幅1.8m、厚さ12mm、質量380kg）をトラックから荷卸しする作業で、梱包木枠に玉掛けすべきところを専用スタンド台に玉掛けして吊り上げたところ、梱包木枠が倒れて荷台で作業中の者が梱包木枠とアオリとの間に挟まれた。	40301	1～9
2002	7	15 ～ 16	歩道舗装用ブロックを載せたパレットを車両積載型トラッククレーン（吊上げ荷重2.93 t）で吊上げて荷台に積み込む作業を2名で行っていたときに、他の場所のパレットを積むため車両積載型トラッククレーンが後進してきたため、後方にいた者が右後輪で腹部を轢かれた。	30199	10～ 29
2002	6	15 ～ 16	自動車修理工場内で、3 t 積載型トラッククレーンのトラック後部ランプの点滅点検作業を行っていたところ、バックランプが点灯しないので同僚にエンジンを掛けるように指示したときに、トラックが突然バックしてトラックと壁との間に挟まれた。	11701	30～ 49
2002	3	8 ～ 9	積載型トラッククレーン（つり上げ荷重2.93 t）の荷台から小型ドラグショベルを吊り下ろしていたところ、トラッククレーンが転倒しトラッククレーンの操作者がトラッククレーンに挟まれた。	30110	30～ 49
2002	2	10 ～ 11	バックホーによる大型ブロック（1.2 t）の据付け作業で、据付け微調整のため運転手が作業員へ位置の状態を話すために運転席の脇から顔を出し、その後運転席へ座ろうとしたときに左肘が操作レバーに当たったためアームが手前に動いてブロックがずり落ち、ブロックと掘削面との間に作業員が挟まれた。	30106	50～ 99
2002	1	14 ～ 15	移動式クレーンの旋回半径内のアウトリガー付近に立っていて、旋回してきた上部旋回体とアウトリガーとの間に挟まれた。	30109	30～ 49
		17	耐震対策のための鋼板設置工事において、交通整理員が移動式クレーンの旋		10～

2002	1	～ 18	回範囲に立ち入り、クレーンのカウンターウエイトと鋼管手すりとの間に挟まれた。	170201	29
2002	1	7 ～ 8	資材置場において1人で片付をしているときに、近くで作業中の移動式クレーン（2.52t）が倒れ、クレーンと地面との間に挟まれた。	30106	10～ 29
2001	12	15 ～ 16	薪を山から搬送し、移動式クレーン(2.93t)で雑木(一束約150kg)を荷台から地上に降ろす作業を行っていたときに、クレーンが転倒し、下敷きになった。	30106	1～9
2001	12	16 ～ 17	雨水管渠ボックスカルバート(14.5t)の据付作業で、ボックスカルバートを45tラフタークレーンで吊り上げ微調整を行っていたときに吊り上げたボックスカルバートが振れ、ボックスカルバートと土止め用矢板との間に頭部を挟まれた。	30110	10～ 29
2001	10	7 ～ 8	港の砂場に運搬してきた砂利をバージ船に揚げる作業をクレーンによって行っていて、砂利の入っていた船倉内で作業をしているときにクレーンのバケットと船倉の壁との間に挟まれた。	40102	1～9
2001	11	20 ～ 21	160tトラッククレーンのカウンターウエイトの取付け作業で、4段のカウンターウエイトのうち連結された1段目と2段目のウエイトを積み込み、3段目のウエイトを吊るため旋回したところ、連結ピン外しの作業を行っていた者が上部旋回体とカウンターウエイトとの間にはさまれた。	80409	10～ 29
2001	10	9 ～ 10	25tラフタークレーン(四輪操舵)のリアステアリングストッパーの修理のため現場である国道に行き、クレーン車輛後部をジャッキアップして左後輪タイヤハウス内の後輪車軸後方で修理作業を行っていたときに、急に舵取りした左後輪タイヤと車体との間に胸部をはさまれた。	30309	50～ 99
2001	9	9 ～ 10	自動車道の4車線化工事において、積載型トラッククレーンで次のガードレール基礎を設置するためにトラックを移動しようとアウトリガーを上げたところ、トラックが坂道を逸走し始めたので運転席に乗り込んで停止しようとトラック前方に回り込んだときにトラックにひかれた。	30106	30～ 49

2001	8	14 ～ 15	建物の新築工事において、積載型移動式クレーン(2. 9t)で7枚目の鉄板(1. 6t)を吊って左旋回をしていたところ、急に右旋回を始めたため、逃げ遅れた手元が鉄板と移動式クレーンの車体との間に挟まれた。	30201	30～ 49
2001	4	14 ～ 15	宅地造成工事において、吊り上げ荷重2. 9tの車両積載型トラッククレーンの荷台に積まれた質量1780kgの側溝を吊り降ろす作業で、ジブを右方向に旋回させ作業半径3. 5mにブームを伸ばしたときクレーンが傾き、最初に降ろした側溝とクレーンの助手席のドアとの間にはさまれた。	30109	1～9
2001	6	13 ～ 14	トラッククレーン(4. 9t)で雨水幹線用のコンクリート管(内径1. 1m、質量2. 0t)を地中(掘削深さ約4m)に降し、コンクリート管から玉掛ワイヤーを外しているときに掘削壁とコンクリート管との間に挟まれた。	30110	10～ 29
2001	6	15 ～ 16	建築廃材の入った小コンテナ(約500Kg)を積載型小型移動式クレーンで吊り上げ荷台の大コンテナへ積み替え撤去する作業で、荷台上でリモコン操作により小コンテナの廃材を大コンテナに空けているときに、立てていた小コンテナが倒れ小コンテナと大コンテナとの間に挟まれた。	170209	1～9
2001	3	2 ～ 3	吊り上げ過重2. 8tの移動式クレーンを洗車場横の傾斜地(傾斜角度5度)に停車させ降りたところ、クレーンが動き出したので停車させるため運転席に戻ろうとしたときに、車両と門柱の間に挟まれた。	40301	30～ 49
2001	1	11 ～ 12	地下横断道の築造のため型枠材を地上の小型移動式クレーン(トラック積載型)で開削した溝の(約6m)の定盤上に降していたところ、クレーン車が横転したため、クレーンの助手席の扉部分と手すりとの間にはさまれた。	30106	1～9
2000	10	13 ～ 14	吊り上げ荷重25tのホイールクレーンの左後方にあるマフラーの排気管を交換する作業をクレーンオペレーターと2人で行うため、クレーンオペレーターが作業しやすいようにクレーンの左後輪を動かしたところ、想定していたタイヤの向きとは逆に動いたため、車体とタイヤとの間に挟まれた。	11701	1～9
2000	9	8 ～ 9	H鋼構造物の防錆用塗装で使用する簡易マスクを取りに行き、その間に別の作業員が小型移動式クレーンを17mほど後退させたところ、運転に違和感を覚えたので停止させて見ると、マスクを取りに行った者が車体下部に倒れていた。	150102	10～ 29

2000	8	17 ～ 18	寺改装工事において、ミニクローラークレーン(1. 5t)による手水鉢の設置作業を終了し、ミニクローラークレーンをトラックの荷台にバックで積載させたときに、後方に気を取られていたためクローラークレーンとトラックの運転席後部との間にはさまれた。	30202	1～9
2000	12	11 ～ 12	浄水場入口のスロープで積載形小型クレーン車が動かなくなったので、荷台のコンプレッサー4台を荷卸していたところ、荷が他のコンプレッサーに接触して下方にすべり落ちはじめたので、それを止めようとして隣接する建物の壁とコンプレッサーとの間に挟まれた。	30199	1000 ～ 9999
2000	2	10 ～ 11	3名で移動式クレーンを使用して土止め支保工用鉄製矢板の降ろし作業を行っていたところ、荷と運転席後部が接触したために荷の方向が変化してバランスが崩れクレーンが横転し、荷台上に居た2名のうち1名は横転直前に避難したが1名は道路わきのステンレス製柵と同移動式クレーンとの間に挟まれた。	30199	1～9
2000	5	9 ～ 10	クレーン付トラックでドラグショベルのバケット部分を回収する作業中、無人の状態で逸走(後退)したクレーン付トラックにひかれた。	30199	50～ 99
2000	11	17 ～ 18	現場で使用していた鉄板を資材置場に搬入し、小型移動式クレーン車(吊り上げ荷重2. 9t)で鉄板(1. 6t)を下ろしていたときに、荷台に何も積んでいないクレーン車が傾いたため、脇に積み上げられていた鉄板と倒れてきたクレーン車のドアとの間に頭部を挟まれた。	30199	10～ 29
2000	8	13 ～ 14	岸壁の浚渫工事において、台船上のクラムシェルで作業中、左旋回したときに稼動半径内に居た者が甲板上の汚泥プール(高さ0. 9m)と旋回体との間に挟まれた。	30111	10～ 29
2000	6	10 ～ 11	浮きクレーン(吊上げ荷重100t)上で12. 5t型テトラポットを海中に据付ける作業で、7個目を吊るためにクレーンを右旋回したときに、下にいた者がクレーンの運転室への昇降用階段と甲板上の燃料ハッチとの間に挟まれた。	30111	100 ～ 299
		11	ケーブルクレーンのワイヤー(重量約0. 5t)を移動式クレーン(吊上げ荷重		

1999	10	～ 12	4. 9tで吊上げて右旋回中に、右前アウトリガーが敷角からはずれたため、移動式クレーンが前方に滑り落ち、移動式クレーンとその前方にあったユニック車の間にいた者が挟まれた。	80209	10～ 29
1999	3	～ 10	現場内に敷いてある鉄板を積載形トラッククレーン（2. 7t）で片付けるため、クレーンを勾配約10度の坂道に止めて、重さ1. 6t×2枚の鉄板を荷台に乗せ、アウトリガーのジャッキを縮めたところトラッククレーンが坂道を下りはじめ、後方で鉄筋をガスで溶断する作業をしていた者を後部タイヤでひいた。	30201	10～ 29
1999	1	16 ～ 17	積載型トラッククレーンのアウトリガーを伸ばして車体の下に入り込み、足回り、ドライブシャフト等にグリスアップを行っていたところ回転していたPTOのドライブシャフトに、着用していたつなぎの作業着が巻き込まれ、窒息した。	30199	1～9
1999	1	10 ～ 11	護岸の石積み作業において、4トンダンプに積まれた2個の石のうち、1個を25t吊ホイールクレーンで吊り上げたところ、吊り荷がダンプの後部あおりに接触したため、反動で車体が揺れて荷台上のもう一つの石が倒れ、この石と左側あおりとの間に右足をはさまれた。	30107	30～ 49

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_31.htmlに戻る。